

高知県教育委員会 会議録

平成30年9月定例委員会

場所：教育委員室

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成30年9月11日(火) 13:30

閉会 平成30年9月11日(火) 16:55

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席者	教育長	伊藤 博明
	教育委員	平田 健一
	教育委員	八田 章光
	教育委員	中橋 紅美
	教育委員	木村 祐二
	教育委員	永野 隆史

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長	高岸 憲二
〃	教育次長	長岡 幹泰
〃	教育政策課長	酒井 啓至
〃	教職員・福利課長	坂田 省吾
〃	学校安全対策課長	中平 文男
〃	幼保支援課長	山岡 幸善
〃	小中学校課長	黒瀬 渡
〃	高等学校課長	竹崎 実
〃	高等学校課企画監	山岡 正文
〃	高等学校課企画監	中村 祐介
〃	特別支援教育課長	橋本 典子
〃	生涯学習課長	三觜 美香
〃	新図書館整備課長	国則 勝英
〃	文化財課長	中平 貢正
〃	保健体育課長	山本 儀浩
〃	人権教育課長	西内 清
〃	教育センター所長	北村 公良
〃	心の教育センター所長	植村 昌史
〃	教育政策課課長補佐	泉 千恵
〃	教育政策課教育企画担当チーフ	三谷 玲子 (会議録作成)
〃	教育政策課指導主事	小島 丈晴 (会議録作成)

(4) 議事の概要及び教育長等の報告の要旨

【冒頭】

- 教育長 9月定例委員会を開催する。
- 教育次長（総括） （提案説明）
- 教育長 付議第1号及び第2号は教職員の人事に関する議案のため、付議第3号は高知県議会9月定例会に提出予定の報道解禁前の議案のため、非公開の取り扱いとしたいが、賛成の委員は挙手をお願いする。
- 各委員 全員挙手
- 教育長 それでは、付議第1号から第3号を非公開の取扱いとする。

【付議第1号 教職員の人事議案（高等学校課）】

○高等学校課長 説明

○質疑

【非公開】

	【非公開議案】
教育長	本事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。
各委員	全員挙手
教育長	本事件を原案のとおり議決する。

【付議第2号 教職員の人事議案（高等学校課）】

○高等学校課長 説明

○質疑

【非公開】

	【非公開議案】
教育長	本事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。
各委員	全員挙手
教育長	本事件を原案のとおり議決する。

【付議第3号 平成30年度高知県一般会計補正予算に係る意見聴取に関する議案

（教育政策課）】

○教育政策課長 説明

○質疑

【非公開】

永野委員	文化財の件だが、国に申請するのに、1年間ぐらい掛かっている。やはりこれぐらい時間が掛かるのか。
教育長	まずは設計がやっとできたぐらい。それと国と調整をしながらやっていくということで、通常の工事に比べると多少時間がかかるということであ

	る。
事務局	それと石垣の修理に関しては、外部の石垣の専門の先生、県外の方に3人ぐらい、高知城の関係ではいろいろお知恵を拝借して、年3回程度、石垣を優先的に改修していく必要があるところの検討をしていただいている。その先生方にも見ていただいて、修理する範囲で、修理方法をご了解いただいて、今回最終的な工事範囲を決定したということである。
永野委員	耐震の石垣の修理の中にも入っていたところか。
事務局	ここはやっていない。全体そのものも「はらみ」といって、かなり下から土が落ちて前へ出てきて、本来は全面替えたいところだが、今回は被災したところだけということをお願いしている。
木村委員	4番は31年度中に全市町村をやったら国から補助金があるのではないか。
事務局	実は、システムの整備自体は30年度中に、31年度から使う分は今年度中に既にシステム整備をしたいと考えていたが、国費の条件で、31年度から使うところだけが対象と言われている。我々も、今委員が言われたように、本当はそういうことが何とかできないかと考えていたが、そこは難しいということであった。
教育長	現実的には国費のほうも上限があって、これ以上はくれないのではないか。
事務局	現実的にはもう7,000万円が最初からアッパーで、その中で使うということであった。
教育長 各委員 教育長	本事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。 全員挙手 本事件を原案のとおり議決する。

【付議第4号 平成29年度高知県教育委員会施策に関する点検・評価に関する議案

(教育政策課)】

○教育政策課長 説明

○質疑

八田委員	前のほうの35ページとか34ページ、引き継ぎシートのところで、市町村が独自の様式を使っているから未実施というのがあるが、それは内容的
------	--

事務局	<p>にそれで足りるのであれば実施に入れてはいけないのか。</p> <p>最初に県が示した引き継ぎシートということで調査を始めて、指標を示したので、教育委員会の中には引き継ぎシートという、県が示したものにしているが、市町村や学校が独自に作っている様式についても、内容的に収まっていれば大丈夫ということで別途調査をしている。</p> <p>小学校は保幼から小学校へ、それから中学校は小学校から中学校へ引き継がれて、それを活用したかどうかという調査になっているが、独自様式等も入ると、幼稚園・保育所から小学校へは約90%、小学校から中学校へは85%ぐらいは紙、又は物で送られているという実態が明らかにはなっている。</p> <p>これは引き継ぎシートだけであるが、計画推進会議に出す資料はそこを替えさせていただいて、引き継ぎシート等というふうな形で数を上げるようにはしている。それが昨年度の終わりぐらいからである。口頭での引き継ぎを含めれば、保幼から小学校、小から中へも90%、92%というように引き継ぎがされているが、校内できちんと共有をして、いつでもその内容を確認できることも必要であるので、シートの使用については勧めている。</p>
八田委員	<p>独自のものも別に遜色があるわけではなく、必要なことはちゃんと引き継がれているということか。</p>
事務局	<p>県が示すより前からそういうものを作っていたところもあったので、県が示した様式を参考にして内容を見直して、確認をさせていただいている。</p>
八田委員	<p>そういう意味では、もうこちらも「等」にしてもいい。</p> <p>80ページの朝ご飯を食べていない子がどんどん増えているということが非常に心配であるが、厳しい環境にある子どもの代表的な指標で、かなり喫緊の課題という気がするが、もう少し分析なり、どうやってこれを改善していくのかということは何があるのか。</p>
事務局	<p>朝食を食べる割合が高知県だけ下がっているということではなく、全国的な傾向として朝食の摂取率が下がっているということを考えると、詳しい分析はしてはいないが、夜型の生活が非常に増えてきている、朝食を食べなくてもいいと思っている家庭が多くなってきているということが、一つ言えるのではないかと考えている。</p> <p>今年、学校栄養士会の協力を得て、学校栄養士会の役員さん、委員さんが入っている学校で朝食の調査をしていただいた。その結果、小学校としては、食べてない理由の中に、小・中ともまず一つは、一番多いのが大体4割程度で「食欲がない」というのが出ている。</p>

	<p>二つ目が「時間がない」ということがある。こちらとしては比較的家庭の問題が多いかと考えていたのですが、例えば、「朝食が用意されていない」という割合に関しては、実は10%程度である。小学校は7.9、中学校は11.8となり、厳しい環境にあるというのはここに当たると思っている。</p> <p>大多数はいわゆる生活習慣の乱れや、あるいは生活の夜型、睡眠時間が非常に短くなっている傾向があり、その大きな理由はネット問題、SNS、そういったものが非常に大きいことから、朝起きても空腹感がないということが大きな問題ではないのかと今回捉えている。</p> <p>今までは、朝食の大切さを、食育を通して子どもたちに学んでもらおうというふうな取り組みをしてきたが、結果としてなかなかその数値的に改善が見られないというところから、今の課題は、やはり基本的な生活習慣をしっかり持っていくことが非常に大事ではないのかと、分析をしているところである。</p>
八田委員	<p>それであれば、かかわってくるのが、ネットの利用に関するルールづくりというのが168ページにある。そのルールづくりを行った学校というのが、全然とれていないという問題があったのであるが、このルールづくりを自分たちが主体的にやるということも大事であるが、そのベースになるものはもともとあってもいい。</p> <p>高知県としては、こういうルールに持っていきましょう、というのがあって、それぞれの学校では、それを実現するためにどうしたらいいかっていうことでも良いかと思う。</p> <p>ここでは、そもそものルールそのものを学校で決めてくださいということなので、何か大前提となるような基本的なルールは、県が出してもいいような気がする。</p> <p>それを実現するために、学校ごとにどうやってやりますかという形でやればいような気がするが、個別に学校ごとにいろんなルールをつくらなくてもいいのかという気もする。この辺りがよく分からないので説明をいただきたい。</p>
事務局	<p>まず一つ、ネットについてやはり県民意識で考えていくことが大事だということで、昨年度条例も改正し、ネット社会から子どもたちを守っていくということについては、保護者をはじめとする大人の責務となった。</p> <p>それを踏まえたうえで、このネット利用についてのルールづくりを、家庭への啓発も図っていきながらやっているという側面と、もう一つは、子どもたちが自分たちでどういうルールがいるかということを考える機会を作っていくということである。あまり具体的なものを事務局が、例えば県として、何時以降の使用をやめようということや、食事の時間は携帯・スマホをいじらないようにしましょうというようなことを例としては示す</p>

	<p>が、例えば各学校、各市町村、そういうところで子どもたちが自分たちで宣言をしながら決めていったほうが主体性が発揮できるということで、そちらに重きを置いて実施している。</p> <p>実際に高知県でも、四万十市、香南市、香美市といったところで、ブロックごとで子どもたちが自分たちでルールを決めるという動きが起こっているので、できるだけそちらの動きを尊重しながら進めていきたいと思っている。したがって、県として具体的なものを示しているということではない。</p>
八田委員	<p>ルールづくりというのは、例えば学校で毎年この時期にやるというような意図でのルールづくりなのか、1回この学校でやったら、その学校はずっとそのルールでやっていくということか。</p>
事務局	<p>さまざまな形態があり、例えば市町村単位で代表生徒が集まってルールを決めているところもある。それから、学校の中でPTA活動の中で保護者と子どもがルールを話し合っていて決めている学校もある。いろいろなパターンがありながら、できるだけ子どもの主体性と大人の参画、保護者の参画ということをやりながら進めていくということもあり、そのやり方についてはいろいろである。</p>
八田委員	<p>いろいろなやり方があってもいいと思うが、そこがよく見えないので、これが伸びていかないのかという気もする。何かもっと具体的に、こういう問題があるからこれぐらいの利用ルールにし、それを実行するためにどうしたらいいかということのを毎年考えるような機会を設けるといことであれば、もっとたくさんの学校でできるような気がする。主体性に期待することは大事だと思うが、そこに期待しすぎるとこの数字になってしまうのかなという気もする。先ほどの食育と関係があるが、何か積極的に関わってでもやらなくてはいけないのではないか。</p>
事務局	<p>言われているとおりである。実際にルールだけつくって、形だけできても意味がない。それがルールとして守られていく、そういったことをやっていく必要があるので、教育の分野だけでもうまくいかない部分もあり、いろいろな関係機関とも協力しながら、できるだけ実効性のあるものにしていきたいということで、今後、具体的に検討していきたい。</p>
八田委員	<p>137 ページで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが参加する校内支援会がなかなか実現していないということで、実は昨日、総合教育会議のときもちょっと気になったのであるが、お願いしている勤務時間帯と学校が打ち合わせをする時間とが、うまく合わないのではない</p>

<p>事務局</p>	<p>かという危惧があるが、その辺りはどうなのか。</p> <p>基本的にお願いをしている時間帯は、例えば9時から4時、あるいは10時から5時といった時間帯が基本形になっている。ただ、それは学校とスクールカウンセラーが調整をしながら勤務時間を決める。</p> <p>言われたとおり、例えば放課後の時間帯にスクールカウンセラーがいないという状況も一部の学校にはあり、結果的に校内支援会になかなか入れないというケースもある。</p> <p>ただ、そのような場合でも、実際にスクールカウンセラーには事前に子どもの課題についてお伝えをしたうえで、校内支援会でその意見が反映できるように進めている。結果として100%になってないというところについてはそのような状況もあり、そこについては今後の改善点であると思っている。</p>
<p>平田委員</p>	<p>目標値と現状では随分乖離をしている状況である。指標についてご説明があったと思うが、132 ページで、ここは中退が大きい目標で掲げられている点で、中高連携の目標値は50%以上で、29年度は下がってきていて、5.5である。この「十分できている」という言葉のウェイトをどう学校が取っているかということだと思うが、下の分析を見ると、肯定的な回答はだんだん減っているとも言えず、73%から87%あたりで推移している。まあまあやっているとは言えないが、やっているという見方で見たらいいということか。中高連絡会は100%の高等学校はこういう会は持っているが見ているが、この辺りはどうなのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ほぼすべての学校で、6月ごろに中高連絡会は行われていると思う。主に、その年に入学した生徒のことで情報共有をしている。</p>
<p>平田委員</p>	<p>データの的にはすごく目標値から遠いが、いろいろ見てみれば、あまり心配はしてないというふうな状況を読み取っている。中退防止に対してという大項目で上げているが、そのあたりはどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>このデータは、今委員が言われたように、調査の仕方として「十分できている」「できている」「できていない」というような項目で、「できている」というところに多くの回答が寄せられており、「十分できている」と回答した人は残念ながら5.5%だったのであるが、「できている」を合わせると、総合分析の中にあるが、87%となっている。肯定的なデータだと9割ということになっており、説明させていただいた他の項目の課題に比べれば、比較的できているのではないかと受け止めている。</p>

平田委員	<p>私もそうだと思うが、中退を防止するというのも大きい目標に掲げているので、データの取り方と思うが、十分できているということで、余り大きな心配はしていない。さまざまな連携をとるということは、中・高は中退以外でも大きいウェイトがあると思う。</p> <p>昨日も総合教育会議で出ていたが、この106ページの家庭学習の問題というのは、私も携わってきたから言うのもおかしいが、進路を決めないといけないときに、トータル的にはほとんど学習しないという子どもが増えているという状況である。</p> <p>それで進路が実現しているということ、ここは何かこう複雑な心境である。高校生というのはやはり学習というのが第一だと思う。いろんな要因があろうかと思うが、やはり子どもたちが家庭学習をしないといけないというような格好で方策を考えていただきたいと思う。これは感想だが、学力向上はここであると思う。小学生、中学生は勉強しないという子どもは学力が低いのではないかと思う。家庭で全くしないという子どもは10%前後はいるのではないか。</p>
事務局	<p>もっと低い。</p>
平田委員	<p>そこが高等学校でなぜかということを考えるが、学力向上はこの点はあると思う。本当に一度聞いたら忘れぬという子どもばかりだったら十分だと思うが、私なんかは何回か繰り返してもすぐ忘れる。そこを、特に高等学校課は施策を考えていただきたいと感じている。</p>
八田委員	<p>この報告では別に構わないが、今の学力定着把握検査の結果で少し気になることがある。</p> <p>今までこの5ページにあるような、こういう割合で示しているが、実数でこれは何人ぐらいのことなのかということが少し知りたい。</p> <p>このベネッセがやっている、評価というのは絶対評価で、ある学年のこの時期にはここまでの学力が必要というものに対して絶対評価をしていて、相対評価ではないらしい。それで、その相対評価でいうと、Bのところがおおよそ偏差値50である。だから、相対的なものと比べると、高知県の子どもたちの半分ぐらいはここに入っているのかなということになる。そうすると、この右側に残り半分ぐらいの生徒さんがいて、それはこの試験をやっていないあと6校に相当する。その辺の全体像が見たいというのが一つと、もう一つはこの数の実数、実際これは何人ぐらいのことなのかということが分かるような資料を一度見せていただければと思う。</p> <p>相対値だけを見ているので、実際の数字の動向が見えにくいと思うので、今回ではなくていい。</p>

事務局	この基礎力診断テストは、大体2,800人ぐらいが受験をしているので、また具体的な数値も含めて資料を作成したい。
教育長	大体高知県の私立も入れたら2分の1ぐらいで、県立の高校生の7割ぐらいである。D3層は全体でいうと650から700人ぐらいの間と、大まかにいうとそれぐらいである。
中橋委員	昨日、ここの部分の基本的な質問をしたが、相対評価ではなく絶対評価ということは、点数で何点以上だったらS、何点以上だったらAという話になるのか。
事務局	一定の点数幅によってこのゾーンが決まってくるという形である。
中橋委員	そこはその年の出題傾向によって若干の変動、ばらつきが出てくるものか。
事務局	若干は違ってくると思うが、ただ、割とこの問題というのは毎年同じ傾向の問題が出ているというふうには分析している。
教育長	SやAや難関へという表現は、この点数でこの偏差値でこれぐらいみたいな感じもする。この部分は企業秘密となっているか。
事務局	そこは出てこない。
教育長	難関大学合格レベルとあって、点数で何点以上という偏差値化をしていて、上位何%がSであるというような感じではないか。
八田委員	その学年の偏差値分布とこのゾーンは毎年、対応表を出しており、この学年でS1だったら偏差値はこれぐらいに相当する。だから、あくまでもこちらは学力の絶対評価で、極論をすると、みんながよい点を取れば、相対ではないため、高知県にはDなんかいないということもあり得る。
教育長	高知県の偏差値ではなく、いわゆる全国的な部分でこの偏差値的なものを出しているのではないか、というようなものか。
八田委員	そういう記述にはなっていない。 学力そのものを見ているという感じである。だから逆に、相対的な評価と照らし合わせるために、偏差値との対応表を提供しているみたいである。

永野委員	<p>110 ページ、111 ページ、高等学校のものになるが、今の流れの中でそのD層が若干減ってくるという、このサプリーを使った中山間での多様な子どもたちの学びの状況というのは、着実にD層の削減につながっているのか。その実感というか、手応えというのはどうか。</p>
事務局	<p>サプリーについては、やはり、中山間の生徒数が少ない学校ではよく使われているという傾向がある。生徒数が増えれば増えるほど、なかなか先生方も手が行き届かないところもあって、視聴時間が短くなったりするような傾向があるということはつかめている。</p> <p>実際にD3が改善している学校は、中山間の学校が多いが、サプリーとD3の減少が直結しているかどうかというのは、そこまでなかなか検証できないところがある。ほかの教員が付いて指導の効果が上がっているのかもしれないし、そこがなかなかこのサプリーだけに限定して検証するというのは難しいところがある。</p>
永野委員	<p>このサプリーの内容、あるいは使い方、サポートというか、その教員の何というか取り付けという課題はあるのか。</p>
事務局	<p>(小規模校でない) 実際は教員が付いて指導しながら見せないと難しいところがあるようである。</p>
永野委員	<p>それはそうであるとは思いますが、ただ、使えと言ってもいけないが、学んだことが確実に定着していて、それが子どもの欲求に合うというか、ご褒美というか、精神的にもそういう自立したものになるというふうな、そういった循環をみることはできるのか。ただ、こう問題を解いて次のランクに行くというのは、慣れてしまったらどうなのか。</p>
事務局	<p>例えば西土佐分校の生徒で、サプリーをずっと見つけて公務員に合格したという生徒がいるので、そういった進路が実現した生徒にとっては実感を持っているのかとは思う。</p>
永野委員	<p>そのお子さんがサプリーを使用した時間とか、そのような分析はできるのか。</p>
事務局	<p>そういうデータは残っている。</p>
永野委員	<p>それともう一つ、110 ページの細かな質問で申し訳ないが、一番下の段のAの遠隔教育の追手前高校と吾北分校の配信・受信があるが、この授業の中身は、政経だったり、探究だったり、特にその探究というのは何か面</p>

	<p>白そうと見ただけで思うが、その追手前高校本校の学習内容と吾北分校のいわゆる受け取り側の学習内容はまた違うと思う。その辺りの工夫は、かみ砕いて、授業がされているのか。</p>
事務局	<p>そこはやはり学校同士で事前に準備をして、両者が協議をするので、吾北分校の生徒の実態に合わせた指導内容にはなっているように思う。</p>
事務局	<p>吾北の生徒だけが受けているので、本校の生徒は受けていない。</p>
永野委員	<p>吾北バージョンでやっているということか。 ということは、追手前の先生は二重に、教材研究・教材開発をしているということか。</p>
事務局	<p>そういうことになると思う。</p>
教育長 各委員 教育長	<p>本事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いする。 全員挙手 本事件を原案のとおり議決する。</p>

【付議第5号 平成31年4月1日付け高知県公立学校教職員人事異動方針議案

(教職員・福利課)】

○教職員・福利課長 説明

○質疑

八田委員	<p>この4番だけ括弧がたくさん並んでいて見栄えが違うが、ここであえて項目に加えたという意味は、登用の選考審査のときにこういう採点項目が一つ加わるという理解でよろしいか。</p>
事務局	<p>採点項目をどういう形でやっていくかは、これからまた後の作業になるが、こういったことを意識して、質問、面接をやっていきたい。こういう意欲のある人物、きちっとしたことができる方を管理職に登用していくことになる。</p>
永野委員	<p>3番について、個人的な言葉の使い方の指向もあるので、こうしてくださいという意味ではなくて、観点として考えてもらいたいのであるが、特色ある学校づくりというのは二十数年来の言葉づかいである。今は中山間振興であっても、同じような取り組みをしても、どこをブラッシュアップするのかということで、魅力のある学校づくりという言葉がほぼ定着してきている。 その捉え方だけの話だが、別に特色のあるでも、その学校にとってどう</p>

	<p>いうふうなスポットライトを自分自身が上げていって、その地域の方々と学校づくりをするかという、そのあり方をぜひ捉えていってもらいたい。</p> <p>今この言葉を替えてくださいという意味ではない、こういうところに県教委の視点も出てくるのではないかと思うので、そのあたりも課題にしておいていただきたい。</p>
中橋委員	<p>一番下の11番で、今回知事部局との交流という言葉を加えたということであるが、実際どのような交流がされているのか。</p>
事務局	<p>これはスポーツ課が使ったイメージということで、もう少し前から入れておいてもよかったのであるが、主にはそのことになる。</p>
教育長 各委員 教育長	<p>事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いします。 全員挙手 本事件を原案のとおり議決する。</p>

【付議第6号 地方自治法の規定に基づく委任の協議に関する議案 (幼保支援課)】

○幼保支援課長 説明

○質疑

教育長	<p>手続きは、これは分離して決裁を取るのか。9月27日に間に合わさなくてもよいのか。</p>
事務局	<p>9月27日に意見を返して、向こうが9月27日に施行する。</p>
教育長	<p>条例の改正ではないのか。</p>
事務局	<p>条例の改正ではない。</p>
教育長 各委員 教育長	<p>事件の議決を求める。賛成する委員は挙手をお願いします。 全員挙手 本事件を原案のとおり議決する。</p>

【報告第1号 県立高等学校再編振興計画「後期実施計画（最終取りまとめ）」について (高等学校課)】

○高等学校課長 説明

○質疑

八田委員	<p>1点気になったのが、各学校の取り組みが書かれている中で、進学拠点</p>
------	---

	<p>校で見出しが「進学拠点校として」となっていたり、なっていなかったりする。</p> <p>何かというと、例えば安芸中・高は進学拠点校として取り組むと書いてある。同じ進学拠点校で、山田は○に書いてあって、小津は学力向上・進路保障になっている。小津も進学拠点校なので、この見出しだけでいいので、進学拠点校としての取り組みというふうにしていただきたい。</p> <p>それから同じことで、須崎総合高校も今回新たに進学拠点校にするので、この平成31年4月開校というよりは、進学拠点校としてというような見出しにしたほうがいい。</p> <p>最後に、中村中・高もなぜか進学拠点校としてというタイトルになってない。だから、これも見出しの文言だけ進学拠点校としてというふうにしていただくとバランスがとれると思った。</p>
事務局	<p>そういう形で揃える。</p>
木村委員	<p>前回のときから比べるとはるかに見やすくなって、生徒の方が見ても理解しやすいのではないかと思う。各学校の父兄から見たら、ということだと思うと、36校のうち16校は「新」がない。父兄から見ると、うちの学校は新たな取り組みをしないのかというふうな誤解、さらに拡充していこうとしているのではあるが、新たな取り組みではない学校について、その学校のご父兄にしたら不満というか、違和感があるのではないかというふうな気がした。</p> <p>それともう1点、9ページの7の定時制のところであるが、この多部制・単位制のところに※印を付けてはどうか。ちょっと分かりにくい用語かもしれない。</p>
教育長	<p>※印は積極的に付けていったらとよい思う。</p>
事務局	<p>専門的なところもあるので、そこはできるだけ補填をし、できるだけ分かりやすいようにしたい。「新」がないというところについては、今まで学校から出てきたものについて、もともとやっていたところは拡充という形で、あまり無理に「新」というのを入れると、本当にできるのか、ということがあり、拡充をやっていく中で新たな項目が出てくるかというふうに思っている。今のところは、もともとの学校の取り組みをベースに、それを拡充することも含めて新たな取り組みという形で見ていきたいという思いである。</p>
中橋委員	<p>その点は、本当にすごく見やすくなり、よくなっていると思う。</p> <p>○新、○拡と書かなければならないのか。拡充でもあり、新たな取り組み</p>

	<p>みでもあり、非常に境界線が微妙なところもあって、こう書いていただいたら分かりやすいが、先ほどの木村委員の懸念もあり、何かあえてここを分けなくても、もうそれこそ丸ポツや1、2といった通し番号でもいいのではないかとも思う。</p>
事務局	<p>できるだけ学校のほうも積極的に取り組みをしたいということであるので、PRも兼ねて、積極的に取り組むという姿勢も見せる意味で、○拡、○新とかいう形で分類させていただければと思っている。</p>
平田委員	<p>ほかの委員からもあったように、前回よりはずっとすっきりしたという感じであるが、昨日のものと今日のもので変わっている。</p>
事務局	<p>校長先生の意見を聞いて若干直すところがあった。</p>
平田委員	<p>それを羅列的に言わせていただく。8ページ、中ごろから上であるが、中村高校を中村高等学校にさせていただきたい。 それと9ページ、(6)の学びの設置ネット体制へ中芸高校は入らないか。</p>
事務局	<p>そこはご意見を踏まえて、今の案としては、この3校を全日制・単位制に改編したというところで、ここの3校ということになっている。</p>
平田委員	<p>感じたところがたくさんあるので、言わせてもらって構わないか。 例えば11ページ、室戸高校の定時制の学力向上・進路保障「新」という意味が少しおかしいのではないか。今までもこれをやっていると思うが、ここが新しいということが理解できなかった。総合学科の見直しで、「なお」から2行の項、こういう項目を入れるということは、3年連続にならなかつたら、普通科への改編を検討するという項目、室戸高校は縛りが入る。ほかの学校はあまりこういう縛りはないと思う。室戸高校の定時制が「新」というのはどうかということが1点。もう一つ、室戸高校はアメリカの学校と交流をしているのではないか。そういうのは、学校の振興策だと思うが。 次に、これは八田先生も言われたところで、私も気になっていた、13ページの安芸高校、部活動の活性化で、ここの項だけ拠点校で中学・高校の種目をこんなに挙げている、挙げても構わないが、共通項にさせていただきたい。あと岡豊、高知工業、中村、ここはちょっとバランスがとれてないと思う。それと大胆な発想であるが、上からいって、安芸の統合1、統合2というのは前々で書いているので、あえて要るのかなと、また、重複して統合1、統合2と書いている。これが要るのかなということを検討していただきたい。</p>

それと安芸桜ヶ丘高等学校の1番は、どうしても学力向上・進路保障が来ないといけないと思う。1番に書くと、それが少しおかしいのではないかというふうに思う。安芸桜ヶ丘でも統合1、統合2というのが要るのかなと。これも前段階で書いているので、重複して、ここを検討していただきたい。

15 ページ、知の拠点校山田高等学校、ここも国・公立大学へ何人という数字を入れているのは3校ぐらいしかなかったが、50人という数字を入れているのは、いいのかどうか検討していただきたい。

16 ページで高知農業、あえて言えば、「新」の新たな農業を学ぶということで、産業系専門学校の取組に下半分は触れている。そこへまた書いているというのは重複しており、意味があるのかと思う。

それと下段の高知東工業高校の「各所」との連携というのは、妙に語呂が悪い。ここは教育関係との連携とか、何か言葉を変えていただきたい。

17 ページ、岡豊高校が公務員講座の充実というのはしっくり来ない。専門高校ではない。前回はこのような表現は全然出ていないのに急に出てきた。これは安芸高校にも出ている。岡豊高校で、こういう表現をするのは違和感がある。

18 ページ、一つは、ここで言う統合1、統合2というのも高知南高校では要らないのではないかと考えている。このページで、皆さんのお知恵を借りたいのであるが、ここに南高校と高知工業と追手前と丸ノ内高校がある。

1番の学力向上・進路保障という点だが、この南高校へは、実現を支援するという事は予算を確保するという事になる。

高知工業については指導体制をさらに充実させるという、県として人的配置をするということか。

高知追手前高校についてもいわゆる指導体制をさらに充実させるというが、体制充実が校内だけではできないと思う。県として人員を配置するのか。

丸ノ内は、これは学校としてこう取り組むということか。いわゆる多様な進路の実現を図るということで、学校としてやりなさいということか。

このページでは、それぞれの学校の書き方で、学校独自でやれということなのか。県が予算を付ける、人も配置するというふうに取り扱われる。

小津高校は八田先生と同じである。進学拠点校の取り組みという表現にしないといけないと思う。小津高校を見て、確かに学校としてスーパーサイエンススクールが四つあって、三つがスーパーサイエンススクールである。全部スーパーサイエンスハイスクールのみを三つ並べているというのは、もっとうまく小津高の魅力を振興策に入れていただきたいと思う。

高知西高校は問題ない。高知国際高等学校は、進学数125名と数字が入っている。人数の数字が入っていたところは、須崎、山田、国際3校だっ

	<p>たと思っている。その下の伊野商業、それと 22 ページの春野高校も「各所」との連携となっていて、ここも気になっている。</p> <p>中身については、あまり言わないが、海洋高校も昨日からは随分変えている。嶺北高校も学力向上と進路保障、というのは入れるのか入れないのか。</p> <p>この嶺北高校の「新」、追手前高校の吾北分校の「新」というのもいかなものか。</p> <p>それと 25 ページの追手前高校の吾北分校は、分校については 7 ページに表しているというのは、一番下へ入れないといけないのではないかと。別枠で書いているので、分校は入ってない。そこの表記を助ける表記が要るのではないかと。</p> <p>それと須崎総合、ここも八田先生からお話があったと思うが、1 番へ持ってくるのはやはり進学拠点校ではないかと思う。そして、ここも 30 人ということが入っている。27 ページではそのところを思った。</p> <p>佐川高校もこの上の端の学力向上・進路保障が「新」というのが、しっくりこない。こういうことを今までも当然やってきていて、拡充ではないかという思いを持っている。</p>
教育長	<p>システム導入や何か新しい制度を導入するため、「新」になっていることであろう。学力向上は当然、今までずっとやってきているからということではないか。</p>
事務局	<p>それはもちろんやってきている。三修制といったところが新規の取り組みである。遠隔システムも新しい。</p>
平田委員	<p>学校として、学力向上や進路保障というのが「新」という言葉は、今までも当然教職員はその気持ちで取り組んでいると思うので、何かしっくりこない。それは検討していただきたい。</p>
教育長	<p>分類として「新」とするのであれば、そういう新しい制度の導入であるとか、何かシステムの構築みたいなところに「新」といって、その項目を分類したら学力向上や進路保障という分類になるが、「新」と打つ場所がそこでいいのかどうかは個別に検討がいる。</p>
事務局	<p>検討させていただく。</p>
平田委員	<p>中村高校も言ったとおり、進学拠点校という言葉になる。それで中村高校西土佐分校も、参照として 7 ページという表記が抜かっている。</p> <p>室戸で何々をするということで、教育内容で宿毛工業にも、満たさない</p>

	<p>状況があった場合については学科改編の検討を行う。かまわないが、そのようなことを考えないといけない学校は、宿毛工業だけではないと思う。それは事務局としてデータを多く持っていると思うので、ぜひそこは検討していただきたい。</p>
事務局	<p>宿毛工業と室戸高校の総合学科については、特にこういうところを懸念していることもあったので、学科改変の検討という表現をしたというところである。それ以上に今のところこういう表現を拡大しようとは考えてはいない。</p>
平田委員	<p>それと最後の 35 ページの清水の表記に、※印があるが、高台移転のあり方については 3 ページを参照というのは、合わないのではないかと思う。統一するならば、南海トラフ地震への対応ということになると思う。</p> <p>室戸と西と清水あたりが外国と外国語の連携をしていると思うが、外国と連携をして教育を振興するという学校は高知県でも少ないので、振興策になると思う。そういうところは入れていただいたらいいのではないかと思う。全体的に学力向上・進路保障で、ほとんどの学校に国・公立大学というのが入っているが、昨日、「スクールガイド」が送られてきていたので、学校の実績を調べてみると、すべての学校は国・公立へ行っていないと見た。その辺りも、学校の振興だから、国・公立へ行ける授業、子どもを育ててほしいという願いはあるが、すべての学校へ入ってくるというのはいろんな面で違和感を持った。</p> <p>私個人としてだが、学校サイドからは国・公立というのは目標だと思う。そのようなところを感じた。</p>
教育長	<p>バランスは整えないといけない。その書きぶりや各校長との調整もあるので、ご意見をいただいた部分は、また調整もさせていただいて、整えさせていただく。</p>
平田委員	<p>小さいことであるが、こういうところが大事だと思うのが、例えば 10 ページ中、全日制や定時制の記載から、地域との連携と書いている。定時制夜間部の地域との連携は、「等」を入るとよいのではないか。なぜ「等」を抜いているのかと感じた。細かい話だが、その立場になったら何でと感ずると思うので、説明ができればいいわけだが、そのようなちょっとしたことは見る人によって微妙な判断をすると思う。私の思いであるので、事務局で練っていただきたいと思う。</p>
中橋委員	<p>室戸高校と宿毛高校についてだが、室戸では総合学科の見直しというのが入っていて、宿毛では総合学科の系列の見直しという違いがあって、地</p>

	<p>域に行ったときに、どちらかと言えば宿毛が、地域の皆さんからすれば総合学科というものに疑問を呈されていたというところがあるのだが、ここはなぜ書きぶりが違っているのか。</p> <p>室戸は、先ほど指摘もあったが、人数まで書いていて、かなり期限を切っているような話だが、宿毛は全然そういう総合学科そのものの見直しというものは触れられてない。ここはパブリックコメントで出すと、宿毛から声が挙がったりするのではないか。ちゃんと意味があってであればいいのだが。</p>
教育長	これは地域と学校がこうしたいと言ってきたのではないか。
事務局	かなり子どもが減っていて、難しいという声もあった。
中橋委員	室戸はそういう声があって、宿毛はそこまでの声はなかったということか。
事務局	一定規模が80人を超えているので、そういう中で中身を見直し、地域と話もして、もう1回総合学科としてやっていければということである。
木村委員	最後の資料のところであるが、シビアなところで、表記の仕方だと思うが、中芸高校というのは中山間の高校ではないか。
事務局	<p>前期の実施計画でも、中山間地域の学校という位置づけはしていなくて、学びなおしの機能を持った学校という位置づけになっている。それを後期でも踏襲している。</p> <p>大きな違いは、中芸高校は全日制ではなく定時制というところで、前期のときにはそういう位置づけであり、それを踏襲してきた。</p>
教育長	<p>今日いただいた意見を踏まえて見直し、議会に示して、最終的にこの教育委員会の場でもう一度報告をするようになる。</p> <p>パブリックコメントを上げるまでは、まだまだこれからいろいろなご意見をいただくようになると思う。それらを反映して最終的にパブリックコメントということになるのでいただいたご意見は、この場でご報告をさせていただく。それまでにまた不明な点があれば、ぜひ事務局のほうにお話をいただきたい。</p>
木村委員	こういう表示の仕方をしますというのは、学校にフィードバックはしなくていいのか。

事務局	各学校にフィードバックして、内容確認をしているところである。
木村委員	学校から、こうしてくださいということもあり得るということか。
事務局	この場でいただいた意見は今日フィードバックをさせていただく。
教育長	<p>山田は思いがいっぱいあって、通常の学校経営計画に載っているようなものについては削って、新規や拡充といったものだけの記載にさせていただきたいということで、まとめていった。だが、50人というような校長の思いがあって、そこに載ってきているので、その辺りは全体的なバランスを見ていく。</p> <p>それでは、そのようなところで、またご意見をいただきたい。ご報告もさせていただくので、よろしく願います。</p> <p>それでは、以上で9月定例教育委員会を終了する。</p>

(5) 議決事項

付議第1号から第6号 原案どおり議決

※付議第3号議案については、非公開議案であったが、平成30年9月高知県議会定例会が開会され、議案が公開されたことから、当該議案の会議録は公表するものとする。